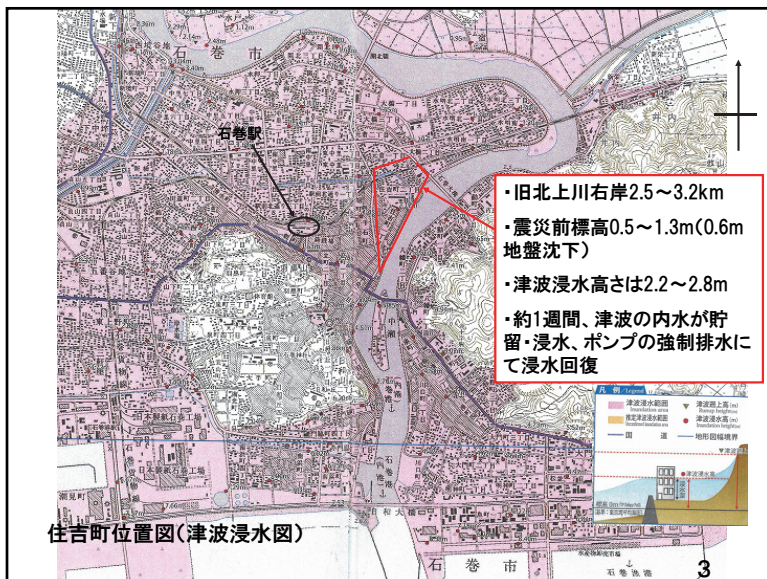


話題の構成

- 住吉町の位置と被災後の現況
- H24年度自主防災活動・被災後のアンケート結果
(H24.11.30集約, H24. 3月取りまとめ)
- H24. 4.28アンケート結果報告及び意見交換会
- H24. 4.28の意見交換会アンケート結果について
- 町内へのアンケート結果の配布方法(31班へ回覧)
- アンケートのまとめと今後の課題

2



H23.3.11東日本大震災に関するアンケート結果 (H24.11.30集約)

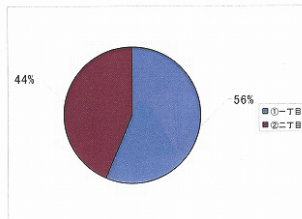
●アンケートでは河岸沿いの1丁目と、やや離れた2丁目では差異があるのかという観点から取りまとめた

1. 回収率 (H23年6月28日現在、全戸数 279 戸、男:353名、女:405名、合計 758名)

①. 一丁目 (87 戸/128 戸以下同じ=68%) ②. 二丁目 (67/151=44%) ③. 合計 (154/279=55%)

1. 回収率 戸

①一丁目	87
②二丁目	67
合計	154



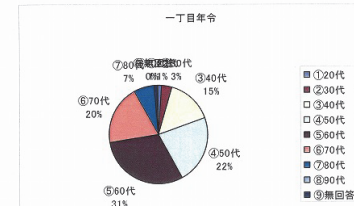
5

2. 記入した方の年齢は、

① 20~30才,② 30~40才,③ 40~50才,④ 50~60才,⑤ 60~70才,⑥ 70~80才,
⑦ 80~90才,⑧ 90~100才,⑨ 回答なし

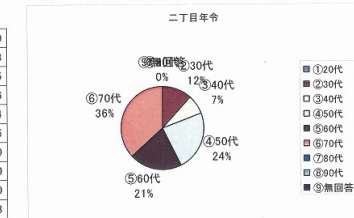
1) 一丁目

2 年齢一丁目	人数
①20代	1
②30代	3
③40代	13
④50代	19
⑤60代	26
⑥70代	17
⑦80代	6
⑧90代	0
⑨無回答	1
合計	86



2) 二丁目

2 年齢二丁目	人数
①20代	0
②30代	8
③40代	5
④50代	16
⑤60代	14
⑥70代	25
⑦80代	0
⑧90代	0
⑨無回答	0
合計	68



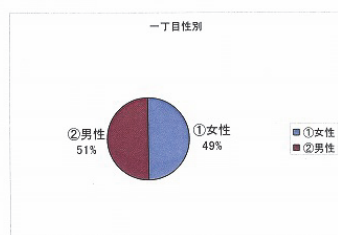
6

3. 記入した方の性別は、

①女性 ②男性 ③回答なし

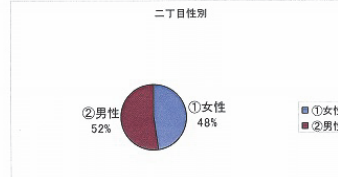
1) 一丁目

①女性	43
②男性	44
合計	87



2) 二丁目

①女性	32
②男性	35
合計	67

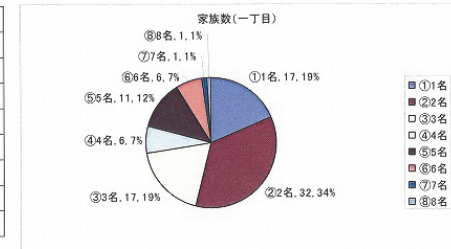


7

8. 家族数 (男 女 計)

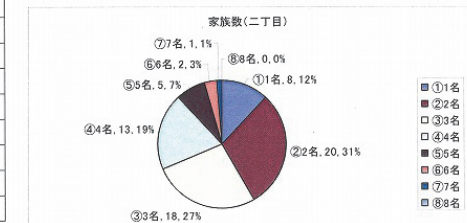
1) 一丁目 (全数)

①1名	17
②2名	32
③3名	17
④4名	6
⑤5名	11
⑥6名	6
⑦7名	1
⑧8名	1
合計	91

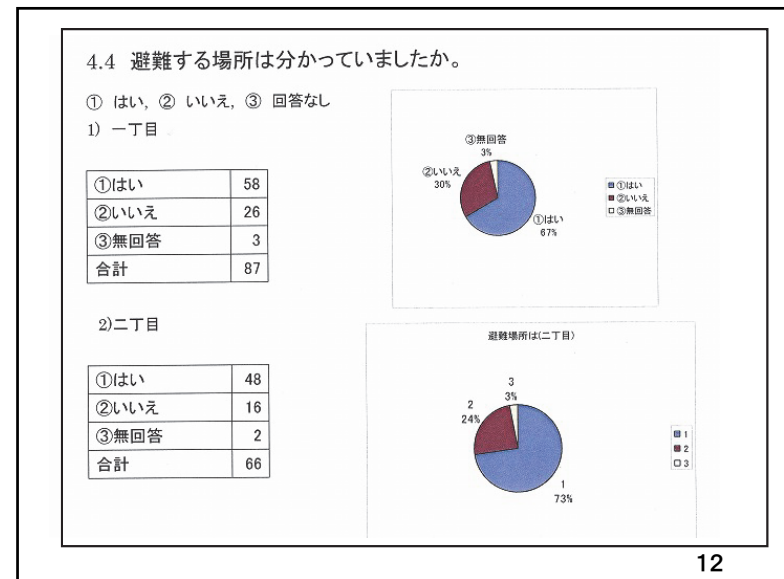
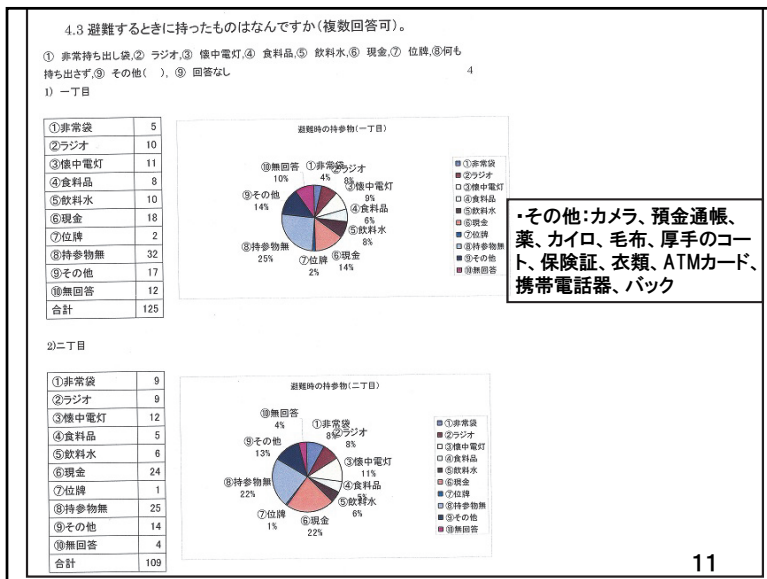
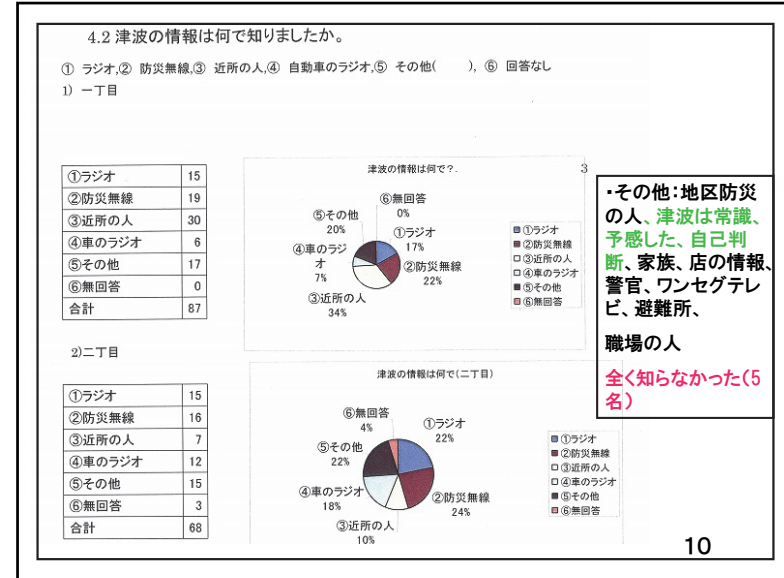
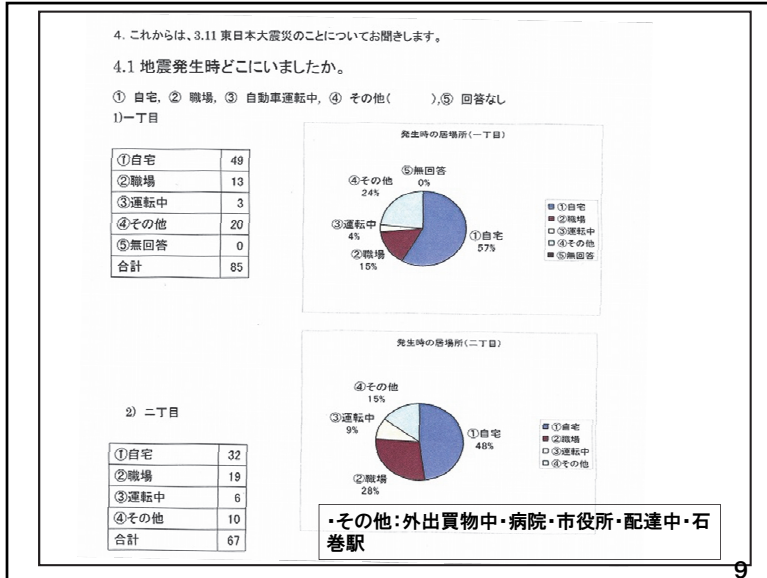


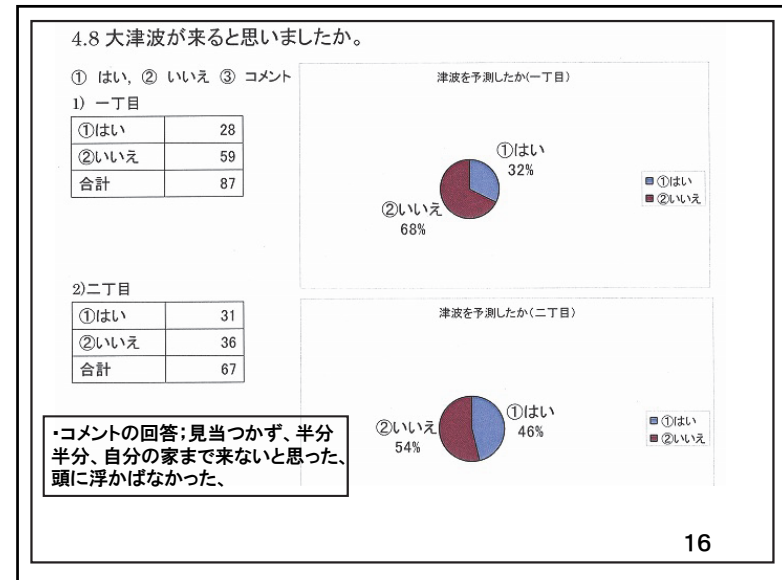
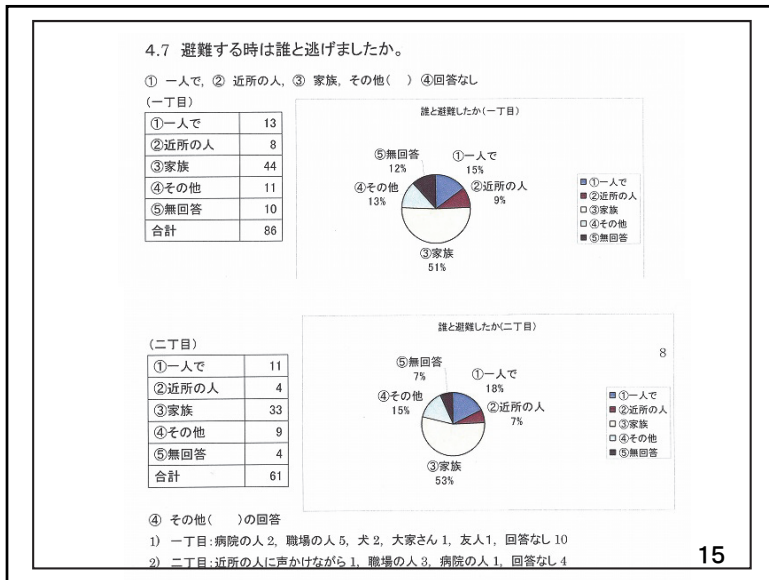
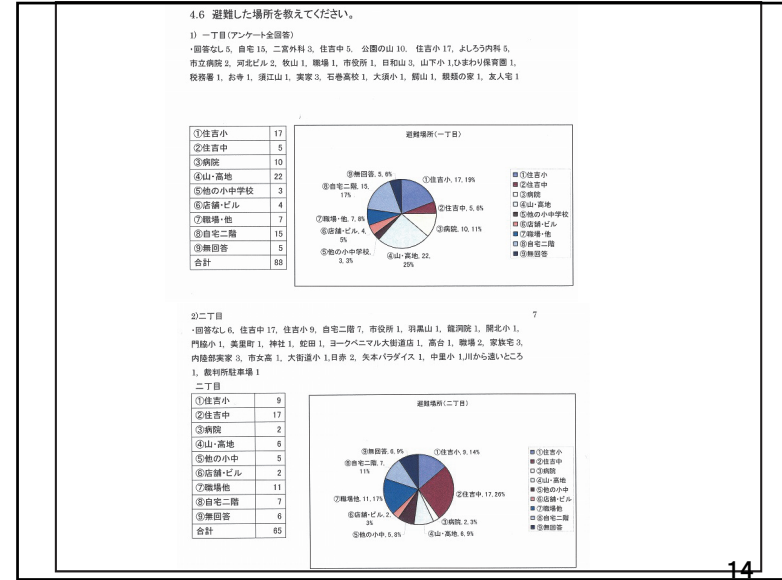
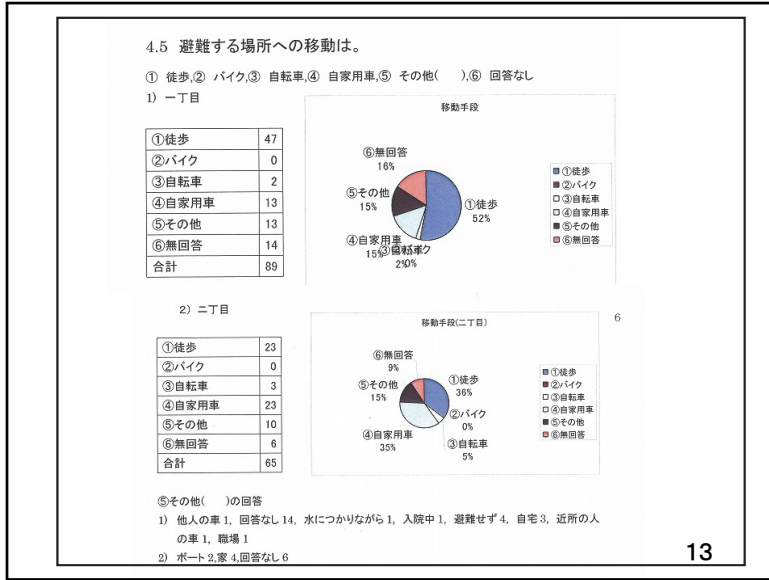
2) 二丁目(全数)

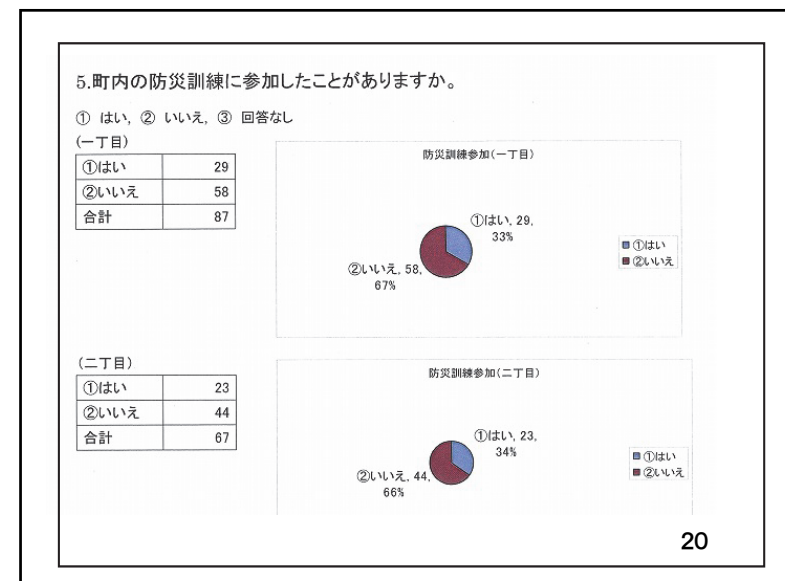
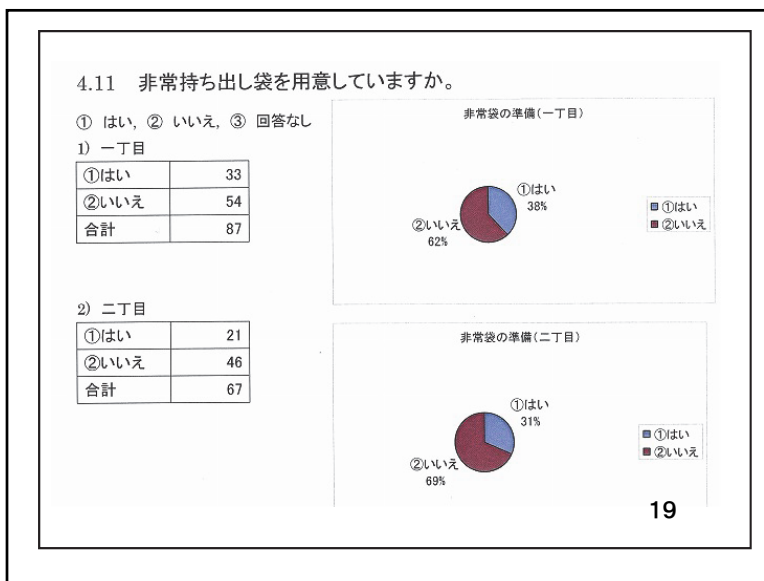
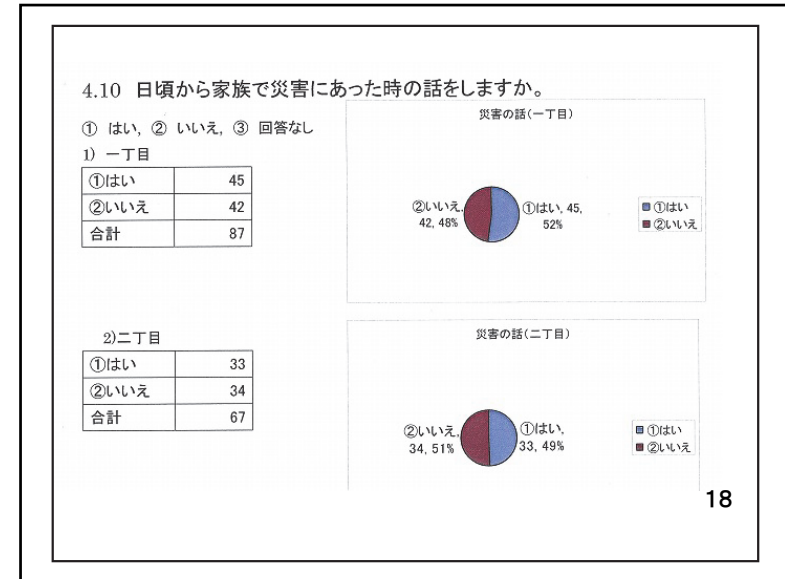
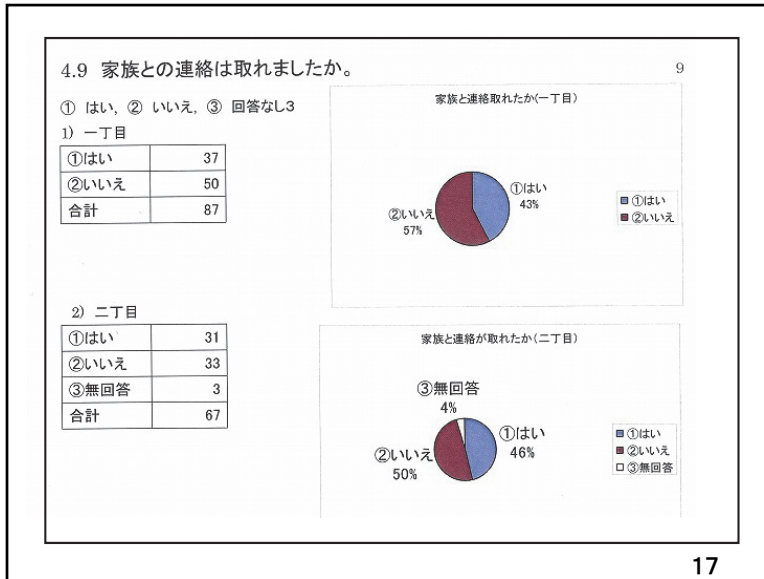
①1名	8
②2名	20
③3名	18
④4名	13
⑤5名	5
⑥6名	2
⑦7名	1
⑧8名	0
合計	67



8



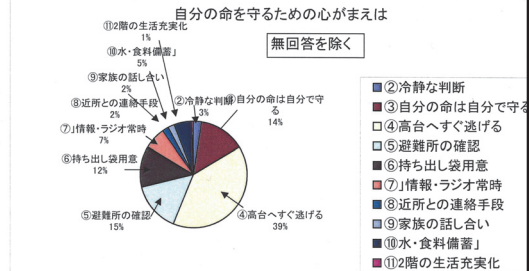




6. 今後自分の命を守るための心がけは

一、二丁目記述

①回答なし	35
②冷静な判断	4
③自分の命は自分で守る	21
④高台へすぐ逃げる	61
⑤避難所の確認	23
⑥持ち出し袋用意	19
⑦「情報・ラジオ」常時	10
⑧近所との連絡手段	3
⑨家族の話し合い	3
⑩水・食料備蓄	8
⑪2階の生活充実化	1
合計	188

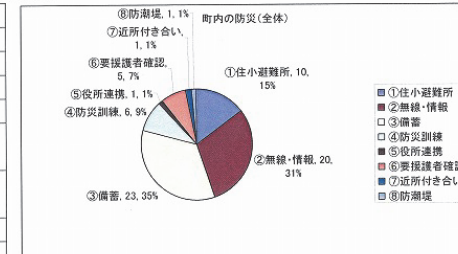


21

7. 町内の防災についてなにか要望がありますか (記述複数.キーワードをまとめた)

1) 無回答を除く一、二丁目の全体合計

①住小避難所	10
②無線・情報	20
③備蓄	23
④防災訓練	6
⑤役所連携	1
⑥要援護者確認	5
⑦近所付き合	1
⑧防潮堤	1
合計	67



22

アンケート結果のまとめ(1)

- ①回収率は全体で55%。記入した年齢構成は50～70代が多く、男女半々。
- ②地震時には、自宅あるいは職場(51～62%)におり、買い物・通院中・外出先の順である。
- ③津波の情報は、近所の人から、防災無線、自宅ラジオ、車のラジオ、自主防災の人から。全く知らなかった人がいた。
- ④避難時に持参物なしが最も多く現金、ラジオ、懐中電灯、飲料・食料品に順で非常袋の持参は、4～8%と少なかった。避難場所をあらかじめ知っていたのは7割程度である。
- ⑤避難場所への移動は、徒歩、自家用車の順で、一丁目では徒歩が二丁目では自家用車が多い。大半は、自宅二階にいた。
- ⑥避難場所は、一丁目近く神社の山と住吉小に、平地の二丁目が地区から遠い住吉中へ避難した傾向にある。避難は、家族と一緒に多く、近所の人、一人での順である。 23

アンケート結果のまとめ(2)

- ⑦津波が来ると思った人は、28～31%で7割が来るはずがないと思っていたことが判明した。震災時に家族と連絡が取れたのは半数以下。日頃から災害の話をしているのもほぼ半数。非常持ち出し袋を準備しているのは4割以下、防災訓練への参加は3割程度であった。
- ⑧今回体験して命を守るためには、高台へ逃げる、避難所の確認、自分の命は自分で守る自覚、持出袋の用意、備蓄の順である。
- ⑨町内の防災会への要望は、備蓄、防災無線と情報の発信、住吉小を避難所に決める、役所との連携、防災訓練の実施、要援護者の安否確認の順である。

24



H24.4.28報告会及び意見交流会の会場,集会所なく住吉小多目的室にて

参加24名(15:00~16.30)

25

H23. 11.30アンケート結果説明後の意見交換のまとめ

- ・ 自主防災会長から初めに発言があり、H22.2のチリ地震津波の時に住吉小に対策本部を設置後、小学校を避難場所とすることは市長や教育委員会の了解を取ってある。避難場所の周知徹底が町内に周知されていなかった。←
- ・ 防災無線が、一丁目では風向き、地形で聞き取りにくい。広報の仕方や改善が必要。夜だったらもっと大変なことになっていた。よく透き通る声で切迫性のある「津波避難せよ」など簡潔するように市に掛け合ってほしい。
- ・ 町内の防災組織の組織図はあるのか。あるが今回具体的に機能しなかった。再作成して具体化するべき。若い人に入ってほしい。
- ・ 今回の津波災害で、防災倉庫の新設と備蓄品は平地に置けないことがはっきりした。住吉所学校の3階の空き教室を使えないのか交渉する。
- ・ 津波で逃げなかった人が多い。これは、H22.2月のチリ地震と被災前のH23. 3. 9の前震の津波が大しかなかったのが勝手に「津波」は来ないと思込んだ「正常化の偏見」が多くの方が犠牲になった要因である。「被害がどうなるのだろう」、「どこに逃げたらよいか」、「避難した後はどう対応するか」をイメージした「防災訓練を繰り返す行」が必要。
- ・ 「災害時は備えてやっておかないと、通常のこともできない」

26

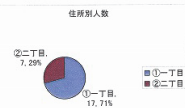
意見交換会とアンケート結果を聞いた後のアンケート集計結果

1. 参加者数:一丁目17名、二丁目7名。合計24名。アンケート回収数23名/24名(96%)。

(報告会後の配布資料:2丁目2部及び一丁目1部)

1.参加者数

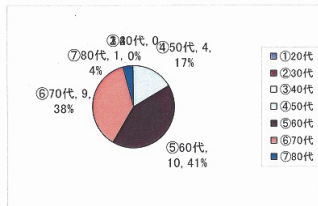
①一丁目	17
②二丁目	7
合計	24



2.参加者の年齢構成

①20代 ②30代 ③40代 ④50代 ⑤60代 ⑥70代 ⑦80代

2.年齢構成	
①20代	0
②30代	0
③40代	0
④50代	4
⑤60代	10
⑥70代	9
⑦80代	1
合計	24

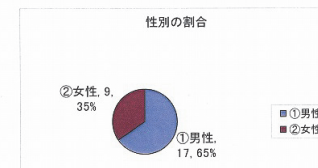


27

3.性別構成 ①男性 ②女性

3.性別の割合(途中退出含む)

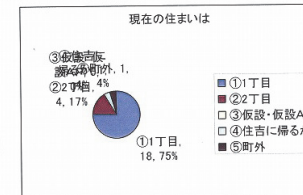
①男性	17
②女性	9
合計	26



4.今の住まいは

①一丁目(二階含む)。②二丁目(二階含む)。③仮設-仮設扱いアパート。④⑤の方住吉に帰ることを考えています。⑤町外()

4.今の住まいは	
①1丁目	18
②2丁目	4
③仮設-仮設AP	0
④住吉に帰るか	1
⑤町外	1
合計	24

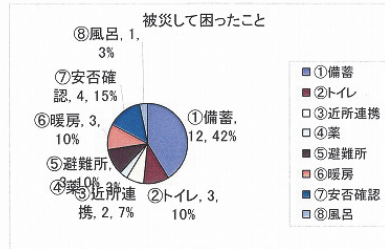


28

5. 被災して一番困ったことはなんですか

●原文のキーワードからの集計結果

6.被災を受け必要と思ったこと	
①備蓄	12
②トイレ	3
③近所連携	2
④薬	1
⑤避難所	3
⑥暖房	3
⑦安否確認	4
⑧風呂	1
合計	29

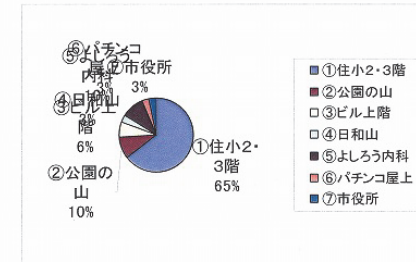


29

7. 住吉町は災害後、地盤沈下量が約 0.5～0.8mです。今後同じような津波が来た場合はどこを避難所として考えていますか。

・皆さんからの回答を集計(複数回答)

7.被災して今後の避難所は	
①住小2・3階	20
②公園の山	3
③ビル上階	2
④日和山	1
⑤よしろう内科	3
⑥パチンコ屋上	1
⑦市役所	1
合計	31



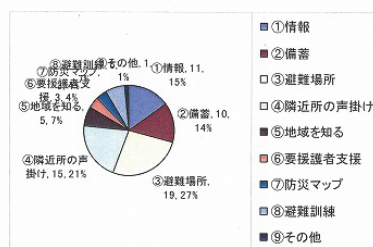
30

8. 町内の防災を目指す活動で望まれることはなんでしょう。(複数回答)

①情報 ②備蓄 ③避難場所 ④隣近所の声掛け ⑤地域を知ること ⑥要援護者支援 ⑦防災マップなど ⑧避難訓練 ⑨その他()

●複数回答集計結果

8.町内の今後の防災活動は	
①情報	11
②備蓄	10
③避難場所	19
④隣近所の声掛け	15
⑤地域を知る	5
⑥要援護者支援	3
⑦防災マップ	3
⑧避難訓練	5
⑨その他	1
合計	72



31

アンケート結果のまとめ

- ・一丁目17名、二丁目7名合計24名参加。男17名女7名。年代は60～70-50代の順。アンケート回収率96%。
- ・自宅に住む人が殆ど、仮設の1名は将来町内に新築予定。
- ・困ったことは・・・備蓄、トイレ、避難所、安否確認、近所の連携、風呂の順。
- ・どこを避難所とするかでは、住吉小上階が65パーセント以上、住吉神社の山、病院、日和山、パチンコ屋の順。
- ・町内の防災活動については、避難所の整備と災害時の近所の声かけ、食料飲料水の確保、正しい情報の取得と速やかな発信、みんなが参加できる工夫された防災訓練と酔う援護者の支援があげられている。
- ・防災訓練の成果の確認、防災無線の改善、各家庭でも二階に備蓄など多くの提案があげられた。

32

アンケート結果の配布方法(31班の回覧)

自治町住民各位

平成24年4月14日
石巻市役所 防災課 4階 401号室
防災・防災課 連絡 15-2

平成23年度東日本大震災町内アンケート結果報告会開催のご案内

昨年11月に、平成23年3月11日の東日本大震災時のアンケートを初めて実施いたしました。アンケート結果の報告と今後の町内防災対策の方向性のご意見を伺い、アンケート結果の報告会及び見学会を開催いたします。アンケート結果の報告会及び見学会は、4月20日(水)まで下記にお集まりください。

①日時：平成24年4月28日(土) 15:00~16:30
②場 所：石巻市役所
③内 容：平成23年11月に実施した町内アンケート結果報告及び見学会
④参加申し込み：アンケート結果の報告を希望する方のみ参加の希望は、4月20日(水)まで下記にお集まりください。

①17丁目 小野 節雄 (05-4964) ②17丁目 野田 豊 (22-3304)
③調査 野田 豊 (05-4964) ④中野 健行 (05-4724)
⑤報告 野田 豊 (05-4964)

自主防災アンケート報告会及び見学会参加申し込み(班)

参加申し込みの済みの班は「見学会」に参加し、参加の方は当日職員よりご挨拶(2枚入り)

班 名											
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

班回覧

自治町住民各位

平成24年5月24日
石巻市自主防災協議会長 野田 正一
石巻市役所 防災課 連絡 15-2(TEL. 93-4900)

自主防災協議会・班長への取組指針について
「#23.1」 班中会議 町内アンケート及び見学会開催報告

開催の趣、町内の皆様方には災害の発生(避難)に役立つことと存じます。
さて、見学会では、平成23年3月11日の東日本大震災津波発生による津波被害で大きな被害を受けました。
自主防災協議会では、平成23年11月に皆様方からのご意見により防災対策のアンケートをとり、その結果に基づいて平成23年8月災害対策の方向性についてご意見を伺いました。
その結果を受けて、平成24年4月28日に、震災時のアンケート結果の報告と皆さんの意見を伺い、今後の町内防災対策の方向性を伺うことになりました。
この結果がよりよい町内防災対策に、資料の提供に役立てていただくことをお願いいたします。
この報告を参考として、自然災害で被災した時にご自身や家族の状況と備え(自衛)や身を守るための備え(避難場所の確保)の取組(行動)をもっと意識し、今年行われる町内の防災意識向上活動、その他の災害で被災された方への支援活動にご参加していただきます。また、今後の見学会については、関係機関に連携を図りながら実施してまいります(活動)など、希望者は、班長さんに申し込まれたら幸いです(希望)の場、ご参加いただきたく存じます。

……………自治町内一時避難所附住宅小学校で……………

班 名										
-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

33

今後の防災組織の課題

- ・ 今回の東日本大震災を受けて、「生きていくのに大切なものは何か」、「今をどのように生きればいいのか」、「この体験を風化させずに次世代に伝えるには何を残すか」を突然にも自然から突きつけられ、また、問いかげられた。
- ・ 今後は河岸堤防建設への対応や町内の戸数・人の減少があるが、めげずにもう一度皆さんと力を合わせて備えを万全に。

- ① 避難場所は、今回の被災を受けて住吉小が一時避難所が決まる。これに伴い、防災倉庫は、3階西端の空き教室を使用する。
- ② 正確な情報の確保と伝達：家庭でラジオ装備、防災無線の広報の仕方と工夫、市から防災組織への情報伝達のシステム化。
- ③ 防災組織の再構築と皆さんが楽しく参加して訓練して体験し、みんなで学べるような、生かせる防災訓練工夫する。結果と成果はアンケートなどで検証。
- ④ 防災マップを再度作成し更地が広がる地域を知る。図上訓練を実施する。
- ⑤ 要援護者への支援には、防災マップを活用し安否確認・避難誘導・避難所への搬送など行動を伴った訓練を交えた支援を目指す。
- ⑥ 各家庭での防災意識の向上「自分の命は自分で守る」、備蓄など。
- ⑦ 地域を知った顔が見える隣近所の挨拶と声掛。町内行事への参加。お互いを気遣う活動を継続する。

34

今後の予定について

- ・ 石巻市総合防災訓練へ参加(石防第59号参加協力依頼書)
- ・ 日時・場所：平成24年7月8日(日) 午前7時から8時の間(時刻は事前通知しない。その時に防災無線から地震発生・津波警報発表後にサイレンが鳴る)。市内全域対象。
- ・ スローガン **「とにかくにげっぺ！」**
- ・ 訓練概要(実施要領別紙)

(1)市民

- ① 初動確認；身の安全の確保、火元の確認
- ② 非常用持出品確認；非常食やラジオ、懐中電灯等非常持出品の確認
- ③ 避難訓練；家庭からの安全な避難場所までの避難の実践(校庭まで)
- ④ 訓練自己検証 避難経路の安全性や所要時間等の確認(チェックシートあり)

(2)自主防災会

- ① 避難訓練；指定避難場所又は高台などの安全な場所への避難の実践
- ② 安否確認；参加人数の把握
- ③ 訓練の検証；別紙「自主防災会アンケート(意見集約)」を基に訓練の検証

「地震・津波避難訓練」は、安全な場所まで非難を行った時点で終了。追加の訓練は各自自主防災会で企画実施してください。

35

